

神奈川

光 陵

英語

出題傾向と対策

出題傾向の分析

問 1 はリスニングテスト。昨年同様独自校共通問題で、従来の会話の応答を選ぶ問題・内容理解の問題以外に、地図を見て答える問題が加まりました。リスニング以外では問5・問7が独自校共通の問題です。問2は本校では例年出題される発音問題。問 3 が単語の問題。共通問題や他独自校にも見られる形式のものです。問 4 が誤文訂正。文の正誤問題は他独自校でも多く出題されますが、本校では記号のみでなく正しく直した答えも書く形式のため難度のやや高い問題です。問 5 は会話の流れに合うよう短文を書く条件作文。問われている文法事項は基本的なものなので点を落とせない問題です。問6・問7は長文読解問題。問7では本文と付随するグラフの両方をきちんと読み取ることが求められています。問8は会話文。会話文補充・内容一致というオーソドックスな出題の他に、本文から時間を読み取って計算する問題も例年どおりの出題です。全体を通して、文法の知識よりも読解力がより求められる問題が多く見られます。

入試までに準備しておくこと

単語の問題では、共通問題や他独自校と同じ単語の出題も見られます。特に月の名前・曜日は必ず書けるようにしましょう。

本校独自の発音問題は他の神奈川県立高校では独自問題、共通問題ともに出題があまり多くないので、明治学院など私立校の過去問を解くのもよいでしょう。

文法問題は1・2年の範囲から広く出題されるので、既習範囲の復習を怠らないようにしましょう。

読解問題では解きにくい問題はありませんが、読むスピードが要求されます。日頃から長文を速く正確に読むことができるよう、練習をしておきましょう。

条件作文は近年独自問題でますます出題が増えている分野です。文法の復習をきちんとするとともに、短文を書く練習や和文英訳の練習をしておきましょう。

リスニングは、継続的に英語を聞き取る練習が必要です。英検準2級・3級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。

英語 分野別出題形式		22年度	21年度	20年度	
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	8	8	10
	記述	英問英答			
		和問和答			
小計		8	8	10	
語彙	記号	綴り	3	4	4
		語形変化			
		発音・アクセント	3	3	6
小計		6	7	10	
文法	記述	適語(句)選択			
		適語(句)補充			
		語順整序			
	記号	部分英作			
		完全英作			
正誤問題・誤文訂正		6	3		
小計		6	3	0	
読解	記号	内容理解(含英問英答)	9	8	3
		内容一致	12	4	8
		段落・文整序			2
		段落・文・節挿入	2		9
		適語(句)・文選択	3	9	1
		語順整序		2	2
	記述	内容理解(指示語など)			
		語形変化			
		空所補充			1
		和文英訳			
		部分英作		4	
		英問英答		3	2
		条件英作	4	2	2
和問和答					
小計		30	32	30	
合計点		50	50	50	

出題傾向の分析

例年通りの大問 4 題の構成で、総小問数は 31 題でした。

問一は、漢字の読み書き、資料を含む文章の読み取り問題でした。漢字の読みは「罷免(ひめん)」、「拙速(せっそく)」など、難易度が高めのものも出題されました。書き取りは「功劳(こうろう)」の「功」を「巧」「効」など間違えないように書く必要があります。資料を含む文章の読み取り問題では、文章が長いのに設問は 3 つしかありません。素早く解く工夫をしましょう。

問二は、小説文からの出題で、登場人物の言動を手がかりに、その心情を推測する問題が多かったようです。少年の成長をテーマにしているため、主人公の心情は推測しやすいでしょう。

問三は、科学のあり方を論じる論説文です。現代の抱えるさまざまな問題に科学者が積極的に関わっていかうという論調は、近年多くなっています。比喻表現を用いてわかりやすく説明しようとしている箇所に関

して、その比喻表現の説明を求める出題がありました。また、本文に書かれてはいるものの設問で問われていることではない選択肢も用意されているため、何が問われているのかを確認しつつ慎重に解答を選ぶ必要があります。

問四は、22 年度に初めて導入された「独自校共通問題」の古文です。光陵高校の過去の出題傾向と比較すると、傾向はほとんど変わっていません。時間配分に気をつけて、最後まで解答できるようにしましょう。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字語彙	漢字の読み取り		4		4		4
	漢字の書き取り		4		4		4
	四字熟語・語彙						
文法・表現							
敬語							
韻文	俳句(鑑賞文含む)						
	短歌(鑑賞文含む)						
	詩(鑑賞文含む)						
資料を含む文章		2	1	3		3	
小説	心情を問う設問	6		6		4	
	場面を問う設問	2			2	2	
	語句	1		1		3	
	本文との正誤問題	2		2		2	
論説	接続語の補充	2		2		2	
	傍線部の理由を問う設問	2		2		2	
	傍線部の説明を問う設問	4		2		4	2
	抜けている表現の補充		2				
	語句			2			
古文	本文との正誤問題	4		6		4	
	主語を問う設問	2		2		2	
	仮名づかい・語彙						
	傍線部の理由を問う設問					2	
	傍線部の説明を問う設問	2		4		2	
本文の内容を問う設問		2					
本文との正誤問題		2		2		2	
条件作文			6		6		6
合計			50		50		50

入試までに準備しておくこと

難しい単語が出てくる文章に、数多く触れておく必要があります。なるべくたくさんの方の文章を読むようにしましょう。また、漢字の読みの出題は難解なものが多いので、さまざまな熟語を読む練習をするとよいでしょう。全体として文章量が多いので、短時間で文章を読めるように、時間を計りながら読解する練習をしましょう。

出題傾向の分析

出題構成は昨年度と同様に大問6題、うち1題が独立小問集合形式で、総小問数は17題でした。

毎年、問1は8題の小問集合となっています。今年も同様で、最初の3問では基本的な計算が出題されています。(カ)と(キ)は自分で図を作成していくことが重要でした。問2は例年通り関数の出題があり、今年も面積に関する問題が出されています。この単元は今年も他の独自問題出題校と共通の問題になっていますが、昨年度の関数の共通問題と比較して難易度が上がっています。問3では、平面図形と確率に関する問題が出されました。複雑な計算をする必要はありませんでしたが、1つ1つの事象を丁寧に検証する根気強さが必要でした。問4は空間図形からの出題でした。昨年度は光陵独自の空間図形の問題を出題していましたが、今年はこの空間図形の問題も他の独自問題出題校と共通の問題になっていました。問5は円と直線に関する問題で、全文記述形式の証明問題が出題されました。こちらも、他の独自問題出題校と共通の問題になっていました。問6は規則に従ってタイルに数字を書く問題でした。この問題では、日頃の練習で身につけた知識を利用できるかどうかではなく、その場でじっくり考えることができるかどうかが問われました。

入試までに準備しておくこと

昨年は大問6題のうち2題が他の独自問題出題校と共通の問題であり、この2題の難易度は他の4題と比較するとあまり高くありませんでした。一方、今年は大問6題のうち3題が独自問題出題校共通の問題となっていますが、この問題の難易度が昨年度よりも高くなっています。特に関数と空間図形の難問については経験が必要ですので、神奈川県独自の入試以上のレベル、すなわち難関国私立高校や都立独自入試の問題に触れておくことが望ましいです。

証明やその他の単元の問題の対策も、光陵の過去問を解くのはもちろんのこと、他に独自問題で入試を行っている神奈川県の学校の過去問や、他の都道府県公立高校の過去問など、様々な問題に触れておきましょう。

また、文章を読みながら図を書いていく練習を、時間をかけて行う必要もあります。

領域	内容	配点		
		22年度	21年度	20年度
数と式	数の性質・表現			3
	数の計算			
	式の計算	2	4	2
	平方根	2	5	3
	多項式の乗法			
	因数分解	2	2	
	小計	6	11	8
方程式	1次方程式			
	連立方程式			2
	2次方程式			2
	方程式の応用	3	3	
	不等式・不等式の応用			
	小計	3	3	4
関数	比例と反比例			3
	1次関数			
	2次関数			
	変化の割合・変域	3	3	
関数と図形	直線と曲線	3	3	6
	関数と図形	3	6	6
	小計	9	12	15
三角形・四角形	角度			
	作図			
	合同			5
	相似	3		3
	三角形			
	平行四辺形			3
円と平面図形	円周角の定理	8	6	3
	円と弧・弦・接線			
	線分、線分比		3	
	面積、面積比			
	点の移動と図形			
空間図形	線分、線分比	3	3	
	面積、面積比	3		
	体積、体積比		3	
	点の移動と図形			
	回転体、球			
	小計	17	15	14
確率	場合の数			
	確率	6	3	3
総合問題	数と式	6		
	図形	3		
	その他		6	6
	小計	15	9	9
	合計	50	50	50